

“反対の民意受け止めよ”

日本共産党

田村貴昭衆院議員が菅首相に断念迫る

地元理解は得られていない
基地建設は断念すべき

○田村貴昭議員 日本共産党の田村貴昭です。

馬毛島の基地建設について、菅総理に質問します。



質問動画はコチラ↑

日本共産党の田村貴昭議員は2月15日の衆院予算委員会、鹿児島県西之表市の馬毛（まげ）島への米空母艦載機離着陸訓練（FCLP）移設をめぐり、民意を無視して計画を進める政府の姿勢を批判し、基地建設を断念するよう求めました。以下、会議録（速記）を紹介します。見出しは当事務所で付けました。

パネル資料を御覧ください。
馬毛島は、鹿児島県種子島の西側約十キロに浮かぶ島であります。貴重な植物が茂り、希少動物のマゲシカの親子が走り回り、島を囲む海はトビウオが跳ね回り、イセエビやミズイカ、トコブシが豊富に捕れる漁場であります。政府はこの島を百六十億円で買収し、米空母艦載機の地上離着陸訓練、FCLP施設並びに自衛隊基地の建設をしようとしています。

総理に伺います。
総理、私は去年の二月十八日、この予算委員会、当時官房長官だった菅総理とこの問題で議論しました。米軍戦闘機の訓練は種子島の住民に耐え難い騒音をもたらす、住民が強く反対していること、また、買収に関わる様々な問題があることを指摘して、中止を求めました。当時の菅官房長官の答弁は、「地元の皆さんの御理解を得るべく対応していきたい。」でありました。

総理、この答弁を今も覚えておられますか。
○菅内閣総理大臣 もちろん覚えております。

○田村議員 一月三十一日、馬毛島の基地建設が最大の争点として戦われた西之表市長選挙で、現職

の八板俊輔市長が再選されました。八板市長は、二月二日、岸防衛大臣宛てに要請書を送っています。大臣、どのような要請だったんですか。

○岸信夫防衛大臣 お答えいたします。

お尋ねの、二月二日付の西之表市長からの要請書における具体的な要請内容でございますが、主に三点ございます。

一つ目は、詳細検討及び外周道路の整備に係る入札行為の撤回、二点目は、海上ボーリング調査の中止、三点目は、環境影響評価を実施しないことであると認識をしております。

○田村議員 要望はその三点です。そして、大臣、大事なところがこの要請書に書かれている。それは、市長が地元の理解は得られていませんと書いているところなんです。

なぜ理解が得られていないのか。米空母艦載機離着陸訓練というのは、陸上の滑走路を空母の甲板に見立ててタッチ・アンド・ゴーを繰り返す、さまざま爆音をまき散らします。一回の訓練で十日間程度、飛行回数は二千回から三千回にも上るとされています。訓練は朝から深夜三時、深夜三時ま

で続き、数分置きにひっきりなしに飛び続けます。

さらに、政府は、島の全部を基地化し、陸空の自衛隊によるあらゆる訓練、演習を予定しています。米軍、自衛隊を合わせた戦闘機の訓練は年間約百五十日、百五十日を見込んでいます。まさに年がら年中訓練を行う大基地計画であります。したがって、種子島の住民が大きな不安を抱いているのは当然のことです。

西之表市議会は、昨年の十二月定例市議会で、FCLP移転と自衛隊整備計画の撤回を求める意見書を可決しました。そして、さきの市長選挙で、基地建設で失うものが大きい、基地は容認できないと訴えた市長が基地受入れ容認の候



補に勝って再選されたのであります。明確な民意が示されたわけがあります。

総理は、地元の理解と協力が必要だと言われました。しかし、市長が地元の理解は得られていないと述べている以上、基地建設に踏み出すことはできないのではありませんか。総理、いかがなんでしょうか。

○菅内閣総理大臣 地元の皆さんの御理解と御協力をいただくように努力をする、そうしたことに尽きると思います。

○田村議員 理解と協力に尽きると言われました。しかし、総理、政府と防衛省、そして地元の自治体との溝は深まるばかりではありませんか。

基地経済に依存しないまちづくり 子どもたちが安心して暮らせる島を

西之表市長は、この一年余りの間に何と防衛大臣に三回も質問書を送っています。そうですね、大臣。そして、二回抗議文を出していますよね。それは、土地の買収にしても基地の設計にしても、地元は何の説明もないままに始めたからであります。自治体、住民の頭越し、なりふり構わぬそのやり方に地元理解が得られないのは当然のこ

となんです。

西之表市には、元々、馬毛島の地理的、そして自然条件を生かした活用計画があります。パネル、資料を御覧いただきたいと思えます。宇宙関連事業、自然・文化施設の設定、島における体験活動の実施などがあります。現に馬毛島では、毎年、小中高生を対象にした体験学習が実施されています。

八板市長は、基地経済に依存しないまちづくりを推進することこそ持続可能な社会への希望があります、将来にわたって島の子供たちが安心して生活できる島を築くことが今を生きる者の責任であると私は考えます、このように述べておられます。ここを市民が支持しているわけであります。

総理にお伺いします。基地建設は地元が願う未来と違います。総理は、地元の皆さんの理解、協力を得るべく対処していく、対応していくと述べられました。であるならば、地元の理解を得ずに一方的に進めることはしません、この場で断言していただけませんか。総理、いかがですか。

○岸防衛大臣 まず、委員のおっしゃるとおり、地元の理解と御協力をいただくというのは大変重要なことだというふうに思っています。その上で、馬毛島におけます自衛

隊の施設につきまして、我が国の南西防衛、また、米軍の空母艦載機の着陸訓練を実施することになりますと、日米同盟の強化に大きく貢献する重要なものであります。

馬毛島における自衛隊の施設の整備については、地元の方々から様々な御質問、御要望が寄せられております。各種調査検討を進めつつ、改めて説明を聞きたいという市民団体からの要望書も防衛省に送付をされているところです。

こうした地元の皆様の御疑問に十分答えていくためにも、様々な調査検討を進めて、事業の進捗に合わせてその内容を改めて皆様にお説明したい、このように考えておるところでございます。

調査、詳細検討、海上ボーリング調査、環境影響評価については、いずれも、地元の方々より、詳細に防衛省の考えを説明するために必要な事業でございます。

また、外周道路の整備についても、馬毛島における自衛隊設備の整備とは別に、国有地の適切な管理のために必要なものであると思えます。

「帰ってきたい島が続いて」地元高校生の声

○田村議員 そういうことを地元と、住民の頭越しにやっているか

ら理解が得られないと言っているんですよ。

総理、昨年末に防衛省が地元で説明会をやっているんです。そのときに一人の高校生が述べた意見を、八坂市長が雑誌の寄稿で紹介しています。高校生の声です、聞いてください。

離島の高校生は、就職だったり進学だったり、一度島を出ます。島を出た後、帰ってきたいかどかが本当に重要なので、帰ってきたくないような島にはしてはいけないと思うんですね。僕の同世代で、島を出た後に馬毛島に基地ができたら、種子島に帰ってきて家を建てて住むということにはしたくないなど言っている人が僕の身の回りにもいます。経済的な豊かさだけを求めるなら、若い世代は外に就職をして、家を建てて、都会で暮らせばいいと思うんです。種子島にある豊かさというのは、自然だったり人だったりと思う。そういうものを守っていくということが、帰ってきたいなと思うような島になって、種子島が、僕の大好きな種子島が続いていくということにつながると思います。総理、この高校生の思いを受け止めるべきではありませんか。

○菅内閣総理大臣 そうした声も一つの大きな声だというふうに思

います。それとまた、賛成の方も反対の方もいらつしやる、そういうことも私、承知をしております。いずれにしろ、先ほど申し上げましたように、やはり市民の皆さんの理解と御協力をいただくことが極めて大事だというふうに思っていますので、そうしたことができるようにはまず全力を尽くしていきたい、こういうふうに思います。

政府の行為が島に分断と対立をもたらしている

○田村議員 総理は、それから岸大臣は、種子島、それから防衛省が取得している馬毛島に行かれたことはありますか。

私、何度も種子島に行っていました。夜、本当に静かな島なんです。星がきれいで。そういう島で、夜中の三時まで、防衛省の説明でも夜中の三時までFCLPがやるんでしょう、戦闘機が飛ばんでしょう。そして、十キロ圏内で、その上空を飛ばないというあかしはどこにもないんですよ。米軍が約束しているわけじゃないんだから。そういうことを是非想像していただきたいというふうに思います。

馬毛島には、まだ学校の校舎がそのまま残されています。かつて



ここで学んで、そして農漁業を営んで、家族で暮らしたたくさんの方の思い出が今も種子島の島民の心に刻まれています。この島には特別な思いがあります。しかし、島の全部を買い取ってしまう全基地化してしまうのであれば、これはふるさとを奪ってしまうのも同じなんです。

こう語っておられました。総理、聞いてください。馬毛島の話が出なければ仲がいいのに、馬毛島の話になると賛成か反対になっちゃう、それが嫌だね。気持ちが変わりますか。無用の対立と分断を持ち込んでるのは政府なんです。離島の住民にこんな思いをさせて、総理、心が痛みませんか。どうですか、分断と対立。今、住民は、島民は困っているんです。いかがですか。

○岸防衛大臣 先ほども申しまして繰り返しになりますけれども、地元の皆様の御理解と御協力をいただくことは大変重要だというふうに思っております。このため、防衛省としては、今後とも、作業の進捗に応じて一つ一つの説明を積み重ねまして、地元の理解が広がり、より多くの協力を得られるように最大限の努力をしたいと思います。このように思っております。

○金田委員長 時間が参りました。

○田村議員 分断と対立、これは不幸をもたらししているんですよ、政府の行為によって。総理、答えてください。

○菅内閣総理大臣 今、防衛大臣が言ったとおりであります。

地元の皆さんによく説明をさせていただいて、御理解と御協力をいただけるようにしっかりと取り組みんでいきたいと思えます。

○金田委員長 田村貴昭君、時間です。

○田村議員 納得できません。理解とそして協力を得ると言いながらも、地元の理解は得られていないと再三繰り返し市長が抗議し、そして質問を出し、そして選挙で民意は示されたわけなんです。基地は断念すべきです。

馬毛島取得を中止し、基地建設を直ちにやめることを求めて、質問を終わります。

～馬毛島活用の方向性～

(平成29年12月策定)

① 宇宙関連事業の展開

「種子島＝ロケットの島」であり、本市でも現在は休止中であるが、H16年度まで宇宙往還機着陸場馬毛島建設促進期成会（HOPE）が活動し国などへ陳情等行っていた。また、現在でも鹿児島県宇宙開発促進協議会（会長＝県知事）が、鹿児島県開発促進協議会と共同で国（内閣府、文部科学省、経済産業省、JAXA）に対し、宇宙開発の推進について要請活動を行っている。

このことから、県と連携を深めるとともに、種子島屋久島振興協議会や種子島宇宙開発促進協議会での要請活動や期成会の再開も視野に入れ、馬毛島への宇宙往還機着陸場の建設に向けた取り組みを展開していく。種子島の地域振興のための宇宙産業誘致と合わせ、積極的に県と連携し国に対し要望を行う。

② 馬毛島自然保護区及び自然・文化総合学術調査施設の設置

市民間においてはFCIP問題に係ることは活発な議論が交わされるものの、馬毛島と種子島の密接な関わり合いや特異な自然環境、歴史・文化的な情報が、十分に市民へ伝わっていないことが挙げられる。

このことから、これらを後世に残すべき貴重な「財産」として、大学などと連携した調査研究機関を設置または誘致し総合的な調査を行い、地元地域住民の福祉向上に資する「教育」「観光」を視野に入れた多様な活用を進めていくことを目的とし、将来的自然保護区設定を見据えた生態調査を主とする共同研究施設の設置を目指す。

③ 馬毛島における体験活動の実施

馬毛島を後世に受け継がれていく教育や観光の土台として、自然と人との関わり方を学ぶ活動や体験ができる場とすることで、馬毛島の特異な自然環境や歴史・文化的なことが改めて認識され、馬毛島を貴重な「財産」として広く住民に知っていただくことができる。

このことから、自然観察（生態観察・星空観察）などのプログラムをとおして、青少年の自立心、協調心、探究心、自然・文化愛護心などを養うことを目的とし、ありのままの自然を活かした体験学習などのイベントを行う。その拠点として、市が保有する馬毛島小・中学校跡地及び校舎を活用する。



馬毛島小・中学校跡地現地調査（H29.12.19実施）

④ 馬毛島トラスト（仮称）の展開

馬毛島の自然環境、歴史・文化的なことを後世に残すべき貴重な「財産」として捉え、これらの保全や活用に係る事業を展開していくためには、本市だけの取組みでは限界がある。

このことから、馬毛島問題や馬毛島に係る活動を世界中に発信し、土地購入や施設整備活動に必要な資金を確保するための「馬毛島トラスト（仮称）」創設を検討する。



馬毛島



出典：田村貴昭事務所2020年10月21日撮影写真、「地理院地図Vectorデータ」（国土地理院）
(<https://maps.gsi.go.jp/vector/#7/36.104611/140.084556/&ls=vstd&disp=1&d=1>) をもとに田村貴昭事務所作成
2021年2月15日 衆議院予算委員会 日本共産党 田村貴昭 提出資料①（パネル）

出典：田村貴昭事務所2020年10月21日撮影写真、「地理院地図Vectorデータ」（国土地理院）
(<https://maps.gsi.go.jp/vector/#7/36.104611/140.084556/&ls=vstd&disp=1&d=1>) をもとに田村貴昭事務所作成
2021年2月15日衆議院予算委員会日本共産党田村貴昭提出資料①（パネル）